# 部落女性と婦人水平社

2022年5月27日　宮前　千雅子

## はじめに

・自己紹介

・最近の研究成果

部落女性について

熊本理抄『被差別部落女性の主体性形成に関する研究』(2020. 4)

宮前千雅子「部落女性と婦人水平社」

(『講座　近現代日本の部落問題　第2巻　戦時・戦後の部落問題』2022. 3)

交差性（インターセクショナリティ）

パトリシア・ヒル・コリンズ／スルマ・ビルゲ『インターセクショナリティ』(2021. 12)

『現代思想』2022年5月号特集ーインターセクショナリティ (2022. 5)

## 1．水平社宣言における女性不在の意味

（1）なぜ女性への呼びかけが存在しないのか？

・時代の制約？

**伊藤雅子『まっすぐに生きるために』(1987. 2)**

…こんなにも差別にひき裂かれ、こんなにも人間の尊厳に熱く心をたぎらせた人たちですら、痛みを分かち合ってともに生きてきた女たちを意識の外に置き、性による差別には無とんちゃくでいたということ。これも時代の刻印のひとつかと思わせられる。

（2）呼びかける可能性は開かれていた！？

・平野小剣による「兄弟姉妹」

**民族自決団　檄（1921年2月）**

檄

独創と創造力を有する我が民族に檄す。

我等民族の祖先は最も大なる自由と平等の渇仰者であって、又実行者であった。そして最も偉大なる殉道者であった。我等はその祖先の血を受けた民族である。…幾世紀来の社会的鉄鎖と桎梏より脱せんとする秋は今なり。全国に散在する我が兄弟姉妹よ。大同団結を図り幾百年来の虐待より解放を期して自由、平等の新社会の建設に努力せよ。　民族自決団

『水平運動史の研究』第二巻　資料編上（部落問題研究所、1971年）

**「同族の兄弟姉妹よ」(1922年2月)**

一特殊民

長い間の屈辱

穢多と卑しめられ、特殊部落民と侮辱され、新平民と賤しめられている俺達同族の兄弟姉妹よ！

遠い先祖から今日の俺達に至るまで数百千年の屈辱、数百千年の虐待、数百千年の屈従と圧迫の鎖は、未だに俺達の身体から放れずに付き纏っているではないか。重い重い此の鎖から解き放たれる日がいつであろうか。…

もう我慢できない

俺達の同族は斯ういう不合理の社会に生きているのだ。もう俺達は我慢出来ないじゃないか。起て、全国に散在する同族の兄弟姉妹よ！！

『水平運動史の研究』第二巻　資料編上（部落問題研究所、1971年）

（3）「兄弟」にのみ呼びかけることの意味は？
・部落民＝部落男性

・不可視化される部落女性

## 2．部落女性と教育

（1）『奈良県風俗誌抄』（1915 年）にみる部落児童の就学率と出席率
・就学率、出席率とも、地区によってばらつきがあるが全体よりも低い地区が多い

・男女とも数値が低い部落についてはとくに女児がより低い状態に据え置かれる

（2）背景にあること
・部落差別による貧困
・女児の教育を軽視し一家の労働力として使用するというジェンダー規範（女性差別）

（3）学校における経験
・差別呼称を用いた一方的な名指しと侮辱・憎悪・排除

**高橋くら子「悲しみの中から愛と自由のため」（1924. 7）**

…何も考えのない東西も定かに解らぬ小学校時代から云い尽くせぬ圧迫や差別を受けて来ました。…クラスの人々が遊んでいるお庭へ行って「仲間へ入れて下さい」と懇願しましても…「チョーリと遊べばけがれるからいやだ」とすげなく云うのです。…クラスの人達から受ける排斥を先生に訴えますと…「お前達がわるい」と頭から叱責されるのです。…無理解な先生や生徒達を憤って退学した姉妹もありました。…女学校へ入りたいと望みを持ちまして…勉強して来る事になりました或る日の事、一人の男生徒が突然大声を張り上げて「くら子はチョーリだから試験に受からない」と云って大勢の前で侮辱されました。…思い切って云ってやろうかと思いましたが相手は男子、しかもその周囲には小さな悪魔がズラリと並んでいるのです。自分のような可弱い女に何が出来るものか…「石にかじりついてもきっとパスして見せる」と涙を呑み歯を食いしめて耐えていました。…

『自由』第１巻第１号

**高橋みすえ「悲しみの中から娘子軍への努めに」（1924.11）**

…ある日、親よりも有難いと子供心に思いつめていた先生が、教室の中で、しかも楽しい読本の時間でした。「此のうちにエタの子がおるなら手を上げなさい」「エタの子には本を読むことを許しません」と嘲笑ながら云いました。…無論私は手を上げることはできませんでした。それは私はエタという言葉も知らず、またそれは、どういうものか知らなかった時代でしたもの…ところが、お隣りの級友が…「みす江さんはチョウリだとみんなが云いますから」と申されました。先生は「チョウリもエタも同じだから、本を読むことを許しません」と私の手もとから読本を引ったくって持っていきました。私は小さな胸が一杯になって泣きました。皆の級友は、大きな声で笑いました。私は泣き泣き教室を出ました。…私は母に申しました。「もう学校へは参りません」…

『自由』第１年第４号

「エタにエタというただけ…」「エタはエタであろうもん…」（『水平月報』1926.4）
「名指し」と同時の投石、ののしり、唾を吐きかけられる…（F・S 子『水平月報』第２号、1924.7）
部落の外に出たものにとっては部落出身の暴露、「南洋の島」に出ても明るみに
（中川しげ子『婦人の国』第２巻第１号、1926.1）

・教育についての無理解

**ケイ「部落婦人の立場から」(1924. 8)**

> …とりわけ、私共部落の婦人は今の社会に於て、実に三重の苦しみを受けている事を忘れてはなりませぬ。…けれども私共部落の婦人は余りに此の屈従に慣れ過ぎております。その理由は、経済的に貧乏な為と、学校での差別のきつい為と、女にあまり学問させなくともよいという間違った考えとのために、私共部落の姉妹は満足に小学校を卒業した者が少なく、つまり教育の自由さえ与えられていないのです。それで…自分等は卑しい人間であると思い定めて…あきらめきっている人々が多くあります。…

『水平新聞』第３号

**高橋くら子「婦人の自覚」(1924.12)**

> …男子には高等教育の機関が備わっているが、女子の教育機関は非常に少ないと思います。世の中の人は、女子は能力が低いとか、知識が足りないと申しますが、女子に対する教育の門戸を閉ざしているからだと思います。もし男子にも女子にも同等な機関を与うれば、女と雖も必ずや男子に劣らないだけの知識は獲得されると思います。…

『自由』第１巻第５号

部落差別による貧困と共同体内部の女性の教育への無理解（女性差別）

一方的な名指し行為と部落女性に対する侮蔑

## ３．部落女性と労働

（１）長時間労働、低賃金

**原田製綿所争議（1926. 1）**

> …私は義務教育もろくろくにうけずにここの会社の女工として通っています。…一家の生計をたてるため…朝は７時から夜は８時まで働き、その上に機械の掃除は時間の外にやらせられるので家に着くころは早くも９時を過ぎます。…工場の内は綿屑のためにまるで真白です。この中で働く私達は、1 日中お日様を拝むこともできません…過度の労役に落ちくぼんだ眼、青ざめたやつれた顔、粗食のための栄養不良、そして極度の睡眠不足のために遂に不治の病患におかされる…苦痛と悲憤の怨嗟の中に無残にも短い一生を終る…自らの生計に対する呪詛、無言の諦め、これよりほかには仕方ないのです。…

『水平月報』第 17 号

１日 13 時間労働（機械掃除は別）、日給 50 銭

※工場法　15 歳未満の者・女性は１日 12 時間まで（施行後 15 年間は延長可能）

※賃金表　綿糸紡績女工　全国１円 16 銭／福岡 97 銭

（２）働く場での経験

・差別呼称を用いた一方的な名指しと侮辱・憎悪・排除

「チョウリンボ」と罵倒される…（『水平新聞』15 号、1936. 1）

「一女工に対して暴虐なる振舞と差別言辞をなしたる男工あり」（『同和通信』第 227 号、1924. 1）

「○○はエタ」などの落書き、同じ宿舎に入ることを拒否（『社会運動通信』第 1397 号、1934. 7）

・雇用されない

郡是製糸会社が「女工募集人」に部落を訪れさせない（『水平新聞』第 13 号、1931. 11）

日本資本主義を支える紡績業に従事する労働者

→低賃金労働者としての「女工」、そこからも排除され得る部落女性

## ４．部落女性と恋愛や結婚

（１）恋愛／結婚の実態

12,339 件のうち、96.5%が部落どうし　／　3.5%が非部落民との結婚

（『部落改善の概況』内務省社会局、1921 年）

（２）恋愛／結婚での体験

**みどり女「憂悶の女から寄せた手紙」（1922. ７）**

…幸子様は女学校を卒業すると広島のある人に嫁して、そして某小学校の訓導に奉職したのでした。学校で幸子様の素性が問題にされてとうとう社会の多くの人が抱く偏見のために放逐されたのです。それと同時に幸子様はその愛する夫からも捨てられたので御座います。ああ！放逐！離婚！痛々しい敗残の幸子様が実家に帰って来たのは昨年の春も終り頃でしたろう。幸子様が自殺されたと聞いた時、妾は失神せんばかりに驚き悲しみました。私に宛てられた１通の遺書「ああ放逐！離婚！何という一生の恥辱でしょう。妾たちの血は！妾たちの血管を流れる此の赤い赤い血はそんなに穢らわしいものなのでしょうか…」

『水平』第１号

**福島市子「生命を賭した恋をも捨てた部落の娘」（1923. ４）**

穢多穢多、私は聞くさえ辛いのです。…卒業後皆様は、ぞくぞくとお嫁にゆかれました。しかし私には起りかけた話も、みなこの血筋ゆえに破談になってしまいました。…（通学中に出会っていたKと再会して）何も知らないK様からは「T さんを僕の一生の妻と定めた。いづれ父に相談して話を取りまとめるから、そのつもりであなたも御両親に打明けておいてくれ」と、いつも情けあつい手紙をくださるのでした。いくらK様が一生の妻と定めても、若しやこの身の素性が知れれば、きっと驚かれるにちがいない。いっそのこと今のうちに打明けてしまおうか。…言いだすこともせずに一人悶えておりました。…とうとうK様はお父様にご相談になり…承諾を与えられたのでした。…しかし興信所とやらの身元調べですぐに私の身分は知れたのです。K様のかたくなな父上は、私の素性を知って「先祖の清い血をけがすことはできない」…「もしお前が穢多の娘と結婚するのなら、俺は死んでしまう…」とまでいわれたそうです。そうまでいわれて、K様は余儀なくお父様のいう通りになったのです。「…とうとう血を吐く思いで父の意見に従うことにした…僕はA家の相続人で、そして一人息子だもの、重い責任のある身だ…」…一人家にいて淋しい日を送っているのです。…

『主婦之友』７巻２号

・結婚後の差別

**西岡糸子「果敢ない誇り－悩み悶えて力を求めに」（1922. ７）**

妾は今、なにもかも申し上げてしまいます。妾は十年前、或る普通民と恋に落ちて同棲することになりました。その時、妾は夫に妾が西濱生まれだと云うことを打ち明けませんでした。妾は毎日毎日、今日は話そうか、明日は話そうかと小さい胸を痛めていました。そして半年ほどたってから、終に大阪の西濱生まれだと云うことを涙ながらに打明けました。

その時、夫は申しまするには、いくら西濱生まれだからとてお前は人間ではないか、…と云うて妾の悶えて泣き崩れるのを抱いて慰めてくれました。…九年後の今日、どうでしょう！ああ！夫は矢張り、普通民でした。魔の手は妾を引き裂こうとしました。…妾の夫の兄の子が、此度お嫁さんを貰うのに妾がエタであると云うことが分かったならば、他からお嫁さんが来ないから、因縁あって十年も添うて来たが生き別れをしなければならないと云うのです。ああ！妾はどうしましょう。…死んでしまった方がよいのでしょうか。…

『水平』第１号

中西千代子の体験

「清い血」「濁れた血」、「家」の相続人、「戸籍」、親族の結婚に差し障るなど

→縦関係の系譜意識に支えられた親族共同体からの排除

## ５．部落女性と家族

（１）非対称的な関係性

**京瀬宮子「婦人より看たる現社会」（1924．３）**

…私が今の夫と一緒になってから十年になります。子供も一人ありますが、夫も舅も姑も私に対しての愛等はちっともありません。それはまあ諦めても自分の腹を痛めた子供の教育だけは自分の思う様にしたいのですが、それも許されないのです。ですから私は夫と別れて実家へ帰ろうと思うのですが、そうすれば社会から批評と嘲笑という制裁を加えられなければなりません。…夫は外に女を作って殆ど家にいないのですが…夫ある女が恋をすると不義、姦通等と道徳上及び法律上の罪人になります。男と女は同人間でありながら、何故甲乙があるのでしょう。…なぜ男の不義を制裁する法律が作られないのでしょう…

『愛国新聞』第２号

（２）主従関係

**ケイ「部落婦人の立場から」（1924．８）**

…私は、先ず第一に私共部落の男性の方に対して反省を求めたいと思います（もとより悉皆とは申しませんが）私共が部落民として侮辱され、迫害される悔しさを知って、人間礼賛、人類愛の運動をされる人達の中で、その家庭の妻や姉妹に対し、其の母に対し、女であるから男より智識が低いもの、又男子の力で活きて居る寄生的な者として軽蔑したり、侮辱したりしている人々はないでしょうか。果たしてありましたならば、そんな人は水平運動に携わる値打ちのないものと思います。…

『水平新聞』第３号

**菊竹とり「動物界の雌雄」（1925.10）**

…ある時代から経済上の実権が男性の手に移り、遂には男性中心の時代が生まれて来たのであります。そして今はまるで女は男の附属物かの様に思われる様になり下ってしまいました。こんなに考えられる今の世の中の女の地位のなさけなさがしみじみ感じられます。…

『水平月報』第14号

**川口久枝「特殊部落の婦人へ」（1925．１）**

…遠い昔より、人間性の尊厳を冒瀆され、男性の従属物の如く、頑冥の如く、物品の如く虐なまれ、更にエタとしての不当なる差別を社会から受け、実に形容し難き血涙の歴史を綴って来た私達…

『水平線』兵庫県附録第４号

（３）自由恋愛と「家」

**正田嘉枝「自由結婚と婦人の覚醒」（1925．１）**

…（日本の「家」は）「家長」を絶対的なものとして、他は奴隷の如く…本当の「家庭」というものは夫婦が中心でなければなりません。お互いに同等の権利を認め合って結婚した男女…が中心でなければならないのであります…

『自由』第１巻４号

→家父長的な家族観と近代家族的な価値観とのせめぎ合いのなかを生きる女性

→つねに男性が支配的立場に位置する非対称的な関係性を問うが、その多くが抽象的で理念的、なぜか？部落共同体内での批判を差し控えたか？

阪本数枝（1894-1966）の日記

…私はいつもあなたから口ぐせのように云われる馬鹿です。ほんとうに馬鹿なればこそ、８、９年もつれそうたあなたの心の奥が分からず、こんなにはんもんするのです。…

…万一自分の今頃のうたがいが真実として表れる時は、その時こそ家出とはやくより心にきめおれば…

私的領域内の抑圧を見出せなかったか？

## ６．婦人水平社の活動

（１）全国の動き

1923 年　全国水平社第２回大会　「全国婦人水平社設立の件」
1924 年　〃　第３回大会　「婦人水平社の発展を期するの件」
1925 年　〃　第４回大会　「婦人水平社設置促進の件」
1926 年　〃　第５回大会　「婦人水平社の全国的連絡を図るの件」
1928 年　〃　第７回大会　「水平社婦人部設置の件」

（２）地方婦人水平社の設立

・関東

児玉婦人水平社　1924 年 10 月１日

部落女性の課題を共有できず、具体的な活動見られず

・福岡

金平婦人水平社　1924 年 11 月１日
福岡県婦人水平社　1925 年５月１日
婦人水平社福岡県連合会　1926 年７月 15 日

○原田製綿所労働争議
1925 年 12 月
「女工」保護者に働きかけ、嘆願書を作成、提出。会社にそのほとんどを認めさせることに成功

→三・一五事件などの弾圧で指導者奪われる

（３）婦人水平社の終焉

1928 年　全国水平社第７回大会　「水平社婦人部設置の件」

運動の停滞の原因
・婦人水平社という別団体であること
・運動を「サボっていた」
・男性が女性問題に無関心であった

女性解放は階級闘争で成し遂げられる、別団体は男性への「反抗運動」
別団体は「小ブルジョア婦人運動」と同じ、今後は「婦人部」のもとで活動
（『日本社会運動通信』第 4 号、1928.6）

※「婦人同盟同志諸姉に寄する公開状」→関東婦人同盟の解体（1928.3）
女性解放は階級闘争で、現状は「小ブルジョア婦人運動」、「男子に対する婦人の反抗」、今後は「婦人部」を充実　（『労働農民新聞』第 43 号、1928.4）

↓
彼女らの経験した抑圧や困難　＝　「二重三重の差別と圧迫」「二重三重の鉄鎖」

→部落男性に反省を求め　　部落女性の置かれた複合的な抑圧状況を表象する抵抗の実践

→非部落女性に対しても反省を迫る

↓
インターセクショナリティを抵抗の実践とするならば、その萌芽は 100 年前に存在していたか？

さらなる連帯を開くために必要なことーアジア太平洋戦争への（水平社／部落女性の）戦争協力について考え続けること

## 参考文献

伊藤康子『まっ直ぐに生きるために』(未来社、1987 年)
鈴木裕子『(水平線をめざす女たち』(ドメス出版、1987 年)
土方苑子『近代日本の学校と地域社会』(東京大学出版会、1994 年)
中村桃子『ことばとフェミニズム』(勁草書房、1995 年)
藤目ゆき『性の歴史学』(不二出版、1997 年)
黒川みどり「被差別部落と性差別」(『近代日本と水平社』、2002 年)
熊本理抄『被差別部落女性の主体性形成に関する研究』(解放出版社、2020 年)
藤高和輝「インターセクショナル・フェミニズムから／へ」『現代思想　総特集　フェミニズムの現在』(2020 年３月)
パトリシア・ヒル・コリンズ／スルマ・ビルゲ『インターセクショナリティ』(人文書院、2021 年)
宮前千雅子「部落女性と婦人水平社」(『戦時・戦後の部落問題』(講座　記現代日本の部落問題　２巻)、2022 年)
宮前千雅子「ジェンダーの視点から水平運動を問う」(『部落解放』822 号、2022 年６月)

「いないことにされる女たち」(ヒューライツ大阪 HP)
https://www.hurights.or.jp/japan/multiple-discrimination-and-women/voices/2022/02/post-3.html